

なのは角型サイロを建物と分離せずに一体にした点である。2階建は荷重が増すため、基礎や2階の床梁に多くの経費を要するとか、乾草がしめつてくるなどの欠点を指摘し得る。

- ② ストールは幅1.3メートル、長さ1.7メートルのもの10と幅1.3メートル、長さ1.3メートルのもの8の対尻複列型である。幅1.2メートルを採用しなかつたのは2階の床梁を支える柱位置の関係からである。
- ③ 飼料室(濃厚飼料置場)は2階に設けて「とい」で階下の飼料室兼通路の飼料箱に下すようにした。この場所はサイレーヅ置場にもなるので間柱棒などで仕切つておく配慮が必要になる。
- ④ 角型尿溜の強度は円型よりないが安価にできる利点がある。
- ⑤ 階下の出入口は西面を乳牛用と堆肥搬出用とし、南側は牛乳用とする。東面は常用しない設計である。2階の西面出入口は乾草搬入用に、濃厚飼料は東面を当てる。
- ⑥ その他はS16-1Aと同じである。

(ii) 3.2 頭用ストールバーン

帯広畜産大学 鈴木省三

S32-1A

- ① 建物施設の配置 — 平屋・対尻複列式で、中央通路南西入口の近くに、乾草舎(吹抜)・堆肥盤を配置した。サイロ・運動場は南側に配し、寒冷時に備えた。将来頭数増加による増築を行なう場合、東北側に延長することが可能であろう。
- ② 牛舎内配置 — 東北側入口に接して左右に牛乳処理室・飼料室をとり搬出入の便を計つた。ストールは南側22、北側に若牛を含めて16頭分とし、哺乳などの便を考え、子牛房3、育成房(群飼)2を牛乳処理室の隣りに配した。この配置の代りにS32-2Aの配置をとることもできる。
- ③ サイロ — 小型2基とし、詰込材料・時期を変えうるようにした。
- ④ 乾草舎 — 搬入・取出しの便のため、中央通り抜け可能。南側には給飼柵を設け、運動場で採食できるようにした。なお、給飼柵の前面は一段高くして、給飼場が泥濘化するのを防ぐのが望ましい。
- ⑤ 尿溜 — 資材節約のため、角型として牛舎側壁を一面に利用した。
- ⑥ 堆肥盤 — 堆肥はマニャキャリアで搬出するよう設計した。キャリアレールは、出入口のところに取外しレールを使いたい。

S32-2A

- ① 建物・施設の配置——S32-1Aの乾草舎を2階に収めた。従来一般的にみられる型式のものである。
- ② 牛舎内配置——対尻複列式、各列19頭とした。牛乳処理室を東南角におき、飼料室をサイレーヂ搬出通路から独立させたので、作業上はS32-1Aよりも便利であるが、サイロが中央により午前中の日光がさえぎられる欠点もある。
- ③ その他の諸施設はS32-1Aと変わらない。

S32-2B

- ① 建物施設の配置——地形その他の条件が直線型よりもL字形牛舎に適する場合のために計画した。2階付きの棟は成牛舎、これと直角に接する平屋棟には、育成牛と牛乳処理室をおいた。サイロは角型2基を北東角に設置した。
- ② 牛舎内配置——2階建主棟は、片側16ストールの対尻複列式で成牛を収容。平屋の副棟には若牛6ストール、子牛3ストールを片側に、育成房2と牛乳処理室を向い側に配置した。
成牛と育成牛が分離されて管理に都合のよい面もあるが、特殊な構造のため、堆肥搬出距離が長い、トラクターの舎内通過困難などの欠点があられている。
- ③ サイロ——建設費・凍結防止を考慮して角型とし、牛舎壁面を一面に利用した。
- ④ 尿溜——汲み出しの便を考え2基に分けた。
- ⑤ 運動場——育成牛運動場は午前中日かげになり、又冬季は雪が堆積する欠点があるので、地形が許せば育成棟入口に接して設けることが考えられる。

(iii) 80頭用ストール・バーン

北海道畜産会 河野 敬三郎

(a) 搾乳牛舎

平家建と2階建とでは多少の相違があるが、基本的には同様とする。平家建と2階建との相違点は、1.草舎を階上にもつ。2.階下の搾乳牛舎の牛房の巾を全部1.300mmとする。(2階の荷重をささえるための支柱の関係から)の2点である。

平家建、2階建ともに、搾乳牛舎・牛乳処理室・休憩室をもうける。飼料室は円形塔形サイロの場合のみサイロの中間におき、その他は休憩室に隣設する。

牛舎は、中央通路をはさみ20頭ずつの4ブロックの対頭式ストールとし、両側と中間に連絡通路をもうける。中央通路は給飼用とし車輻により給飼するために巾を広くし、両側端2.500mm、中央部2.700mmとする。給飼通路の両側に飼槽をおき、この間に高さ30mのふちをつけ通路の汚物はいらぬようにする。飼槽の巾は600mmとし、その底よりふち石までの高さは250mmとし、底部